

立川市立若葉台小学校

学校だより

平成31年4月9日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目2番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

2度目の春

いづち みつる

校長 井土 満

新校「若葉台小学校」が始まり、2度目の春を迎えました。昨春、若葉台小学校は、地域や保護者の皆さんを始め、多くの方々のご支援をいただき、また、思いや期待を担って開校しました。その思いや期待を端的に表せば、「共に学び共に育つ学校」「地域をつなぎ、未来を拓く学校」と言うことでした。そのような新校で学び育つ児童には、様々な人々と協力し、困難な問題にも立ち向かい、世界や社会に貢献し、次代のまちを担う人間になってほしいと願い以下の教育目標を定め、今年度も、心（情緒）、学力、体力がバランスよく身に付く教育を進めていきます。（○は重点目標）

○心豊かな子（生命や人権を尊重し、みんなと協力する心豊かな子ども）

自ら学ぶ子（自分から学び、深く考え、行動する子ども）

元気な子（未来を切り拓き、世界や社会で活躍する元気でたくましい子ども）

さて、今年度、立川市の教育が大きく変わろうとしています。それは、市内全校で「コミュニティスクール（学校運営協議会）事業」がスタートすることです。

コミュニティスクールは地域や保護者の方々が、学校運営により積極的に関わる事業です。学校運営協議会の方は地域の代表として、学校の経営方針や教育内容を検討、承認するとともに、地域や家庭がどう学校を支え、学校がどのように地域に関わりをもつかなどを話し合い、提言します。

今までは、地域や家庭は、言ってみれば「一方的に学校を支える立場」でしたが、これからの学校のあり方は、双方向の関わりが求められます。まさに、若葉台小学校が目指している「地域をつなぎ、未来を拓く」学校です。なお、若葉台小では、若葉町という地域が一体となって、「若葉町の子供たち」の教育を進められる体制作りとして、立川第九中学校と共同で学校運営協議会を設置します。

ご家庭、地域の皆様には、2年目の若葉台小学に、若葉町の子供たちに、引き続きのご理解とご支援を、よろしく願いいたします。



4月8日 第2回入学式

■ 4 の 辦

- 8日（月）始業式 入学式
- 9日（火）1年集団下校（始）
- 10日（水）身体計測（全児童）
給食始（2～6年・たんぼぼ）
- 11日（木）1年集団下校（終）
- 12日（金）保護者会（低・たんぼぼ）安全指導
- 15日（月）委員会活動
- 16日（火）保護者会（高）
- 17日（水）尿検査一次（全児童）
- 18日（木）保護者会（中）
全国学力・学習状況調査（6年）
1年生給食始
- 19日（金）集会（1年生を迎える会）
耳鼻科検診（2年・6年・たんぼぼ）

- 22日（月）児童朝会 クラブ希望調査
- 23日（火）交通安全教室（1年）
耳鼻科検診（3・5年）
- 24日（水）集会（委員長紹介）
一斉下校（給食後）
内科検診（1年・4年1・2組
たんぼぼ）
- 25日（木）心臓検診（1年）
- 26日（金）歯科検診（1年・4年1・2組）
離任式（5校時）
消防写生会（1・2年）雨天延期



立川市立若葉台小学校

学校だより

平成31年4月26日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目24番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

(先月号で電話番号が間違っていました)

平成から令和に

いづち みつる
校長 井土 満

「平成」の時代が、あと数日で終わろうとしています。新しい元号の発表から1か月がたちましたが、発表当日や直後の熱気は、少し冷めたようにも感じます。日本中が「令和」という元号、新しい時代の到来を受け入れ始めたせいかもしれません。

私は、「令和」の出典が「万葉集」だったことにビックリすると同時に、とてもうれしく思いました。それは、中学校の国語の教師をしていたときに、下のような思い出があったからです。

「万葉集」は、奈良時代後期（780年頃）に大伴家持らによって編纂されたとする、現存する日本最古の和歌集です。そこには日本で最初の元号「大化（645年～）」の頃から130年間の約4500の和歌が載っています。4500のうち4200首あまりが、5・7・5・7・7音のリズムからなる短歌です。短歌は現在でも多くの人々に愛好され、新聞などには毎週多くの作品が寄せられていますし、最近の人気アニメ「ちはやふる」で描かれている百人一首も短歌です。

授業では、1300年以上前の文化が、今でも人々の中に生きて伝わっていることは、世界に誇れる日本の文化の一つだと、生徒には教えてきました。

万葉集の中には天皇や貴族の歌だけでなく、兵士や農民の歌がたくさん入っています。その代表が、関東地方から九州へ送られた防人（さきもり）とその家族が作った「防人歌」や、関東地方の庶民が詠んだ「東歌（あずまうた）」です。それらの中には「多摩」や「武蔵」という言葉が使われている歌もあります。授業で、その歌を紹介し、1300年も前から、私たちの住んでいる地域が「多摩」「武蔵」と呼ばれていたことを教えると、おどろき感動してくれる子もいました。

元号を中国の書物からとることは、伝統と意味があるのですが、私にとっては、多摩地区の遙か遠い歴史・文化もしのばれる「万葉集」から、「令和」という元号が決まったことが、とてもうれしかったのです。

元号決定の総理会見では、『令和』には、人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められています。」という言葉がありました。また、外務省では「令和」は「Beautiful Harmony（美しい調和）」と英訳することを決めました。

若葉台小学校の開校理念の一つは【地域をつなぎ、未来を拓く学校】です。その実現のために、「日本の伝統・文化を理解し尊重するとともに、多様な伝統・文化を認め受け入れ、地域社会や国際社会に主体的に参画・貢献しようとする意欲と態度を育てる。」教育をおこなっています。それらは、「令和」という元号の中にある意味に、通じるものを感じます。

会見の中では、「厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人一人の日本人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたいとの願いを込め、『令和』に決定しました。」という言葉もありました。

初めて聞いたときには、多少の違和感のあった「れいわ」という響きも、徐々に生活の中に溶け込んでいくはずですが。その時に、「令和」という新しい時代が、若葉町の子供たち一人一人にとって、大きな花を咲かせる時代になっていけばいいなあと思いました。



4/23 1年生 交通安全教室

立川市立若葉台小学校

学校だより

令和元年6月3日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目24番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

半日運動会の課題と成果

いづち みつる
校長 井土 満

5月25日の本校第2回運動会には、5月としては異例の猛暑の中、保護者、ご家族を始め、多くの地域の皆様にも、ご参観・応援いただきました。合わせて、自転車整理、校内外の巡視、テントなどの後片付けにも、多くの方にご協力いただきましたこと、御礼申し上げます。ありがとうございました。

今年の運動会は、午前中で終了するという、新しい形の運動会として計画しました。決定の背景を、4月の保護者会で「授業時数確保と授業の質の確保のため」と説明させていただきました。その会のときは、それほどの反響はありませんでしたが、後日様々なご意見をいただき、授業時数や決定の経緯については、もう少し丁寧に説明をしなければならなかったと、反省しました。

学校の授業は、学習指導要領により、各教科の時数が決められていて、その合計が標準授業時数です。日本中の学校が、この標準授業時数を上回るように、学校の教育課程(教育計画)をたてます。来年度(令和2年度)から、新学習指導要領が実施され、3年生以上の授業時数が、今までよりも大幅に増えます。新たに、3.4年生は外国語活動、5.6年生は英語の授業が導入されるからです。実際には、令和2年度から急に増えるのではなく、移行措置の平成30年度と今年度は、すでに少しずつ授業時数が増えています。

具体的には、3年生は、29年度までは年間945時間だったのが、去年と今年は960時間、来年度から980時間になります。同じく4年生以上は、980時間→995時間→1015時間になります。プラス35時間です。大ざっぱに言えば、7日分の授業時数が増えるということです。

今年度の教育課程を考えるときに、どのようにしたら授業時数を確保できるかを、他区市の動向などもみながら、様々な場面や行事について検討しました。運動会でいえば、学年競技だけでなく、応援合戦、選抜リレー、全校競技、赤白対抗、表現運動、お弁当などあらゆる面から検討され、最後は、運動会自体をやる・やらないまで粗上(そじょう)に上がりました。どれも、残せれば残したいものばかりですが、検討の結果としての、半日運動会の決定でした。

運動会のような学校行事は、残念ながら、授業時数にはカウントされません。学年競技の騎馬戦や棒引きなどの練習時間も、授業の時数にはなりません。全校での体操、応援、行進などの練習も、同じく授業時数には入りません。短距離走、表現運動は、体育の授業として認められます。

今年の運動会では、どの学年も、表現が6時間、短距離が2時間の授業内でと決めて取り組みました。職員室の予定表にはデカデカと「練習時間厳守」と貼り付けられていました。本番直前になり、急に時間割変更して、学活や体育の時間をプラスの練習にあてるというようなことを「認めない」という、教務の強い思いです。

保護者の皆様から寄せられた感想の中で、「完成度が低かった」というご意見がいくつかありました。限られた時数の中で、いかに質を高めるかは、来年以降の課題です。

成果の一番は、運動会前の子どもの授業への取り組み姿勢です。去年まで見られた、行事の合間の疲れた様子でザワザワした感じの授業がほとんどなく、どの学年、どの学級も落ち着いた雰囲気、子どもたちが集中した授業ができていました。

保護者アンケートの多くは、猛暑もあり「しょうがない」「半日でよかった」と半日運動会を後押ししてくれましたが、暑くても、涼しくても授業時数の問題は、学校に、そして子どもたち突きつけられた大きな課題です。来年度は、今年よりも、さらに授業時数が必要になります。

夏や冬の休みをもっと減らしますか？振替なしの土曜日授業を増やしますか？いっそ、運動会やめちゃいますか？学校行事のあり方、授業のあり方など、地域や保護者の皆様と一緒に考えていかなければならない時代なのだと、改めて思います。



運動会前日でもしっかり勉強

立川市立若葉台小学校

学校だより

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目24番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

令和元年7月1日発行

『気持ちのよい挨拶』と『す・し・す・き』のお話

なかの たかひろ
副校長 中野 貴博



中野区教育委員会から本校の副校長に赴任して、早いもので4か月が経ちました。若葉台小学校のことや地域のことなどについて、井土校長先生をはじめ、地域の多くの方々から学ばせていただいております。日頃より、本校の教育活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

先月は、4年生と一緒に、立川防災館に行ってきました。大勢での移動や電車の乗り方、話の聞き方などを見ていましたが、4年生の立派な姿に感動し、帰校して4年生の子どもたちをたくさん褒めました。特に嬉しかったことは、立川防災館の方々、「挨拶がとっても素敵ですね。」と褒められたことでした。

4月の月曜朝会では、1年生から6年生の子どもたちに、「気持ちのよい挨拶が若葉台小学校に全体に広まるといいですね。」というお話をしました。若葉台小学校のみんなが挨拶を意識し、立川防災館に行った4年生だけではなく、若葉台小学校全体に「気持ちのよい挨拶」が広がっています。

これは5月のお話です。私は出張に向かうため、学校前のバス停（コンビニ前）でバスを待っていたところ、登校中のある若葉台小学校の男子1人が私に声をかけてきてくれました。

男子「副校長先生、おはようございます。」

副校長「おはようございます。素敵な挨拶だね。さすがだね。気を付けて学校に行ってね。」

男子「副校長先生は今からどこに行くんですか？」

副校長「今から出張に行ってきます。」

男子「気を付けて行ってきてね。頑張ってきてね！！」

副校長「ありがとうございます。」

男子からの「気持ちのよい挨拶に」朝から涙が出てしまいました。

このような「気持ちのよい挨拶」が広まりつつある若葉台小学校がさらに大好きになりました。

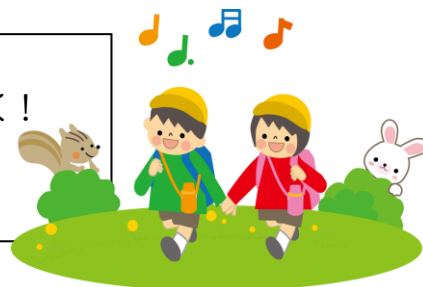
6月最後の月曜朝会では、若葉台小学校の子どもたちの「気持ちのよい挨拶」を褒めた後、3年1組担任の柘井主任教諭から教えてもらった『す・し・す・き』についてのお話をしました。

『す』 素敵な挨拶と返事

『し』 しゃべるときはしゃべり 聞くときは聞く！

『す』 すみずみまで掃除

『き』 強力（ストロング）な協力



今後はこの『す・し・す・き』が広まるようになると、さらによりよい若葉台小学校になるのではないかと感じています。ご家庭でもお子さんと話し合ってみてください。

立川市立若葉台小学校

学校だより

令和元年7月20日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目24番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

「ユー、やっちゃんなよ!」

いづち みつる
校長 井土 満

中学校の教員になったばかりのころ、女子生徒が私に「先生『ヒカルゲンジ』って知ってる」と聞いてきました。大学での卒論が平安文学だったので、「もちろん知ってるよ。源氏物語だろ。」と自信をもって答えました。すると、その子は若い新米教師を少し馬鹿にしたように、「歌手、アイドルグループだよ。」と教えてくれました。そのグループの一員が、若葉町に住んでいるとか、いないとかが子供たちの間で話題になっていたのは、もう30年以上も前のことです。

先日、ジャニーズ事務所社長のジャニー喜多川さんが亡くなりました。男性アイドルには、あまり興味のない私でも、今ではジャニーズのタレントの何人かと、社長のジャニー喜多川さんの名前は知っています。新聞記事にはジャニーさんの、オーディションにくる子供たちの中から、タレントとしての才能を見出す能力は神がかったものだったと書かれていました。そして、何か新しいことに挑戦させるときには「ユー、やっちゃんなよ!」との応援が、口癖だったそうです。

クラレの調査によると、6年生(2019年3月卒業)の「将来就きたい職業のトップ5」は、男の子は①スポーツ選手、②研究者、③医師、④ゲームクリエイター、⑤エンジニアで、女の子は①教員、②保育士、③看護師、④パティシエ・パン屋、⑤美容師だそうです。芸能人・歌手・モデルも、それぞれ13位、14位に入っています。

子供たちの将来への「夢」は、大きく広がっています。その夢がかたうように応援したいと思うのが、保護者であり、教員だと思います。しかし、実際には、二十数年もの中学校教員時代の進路指導では、子供たち一人一人の適性や可能性を的確にとらえて、将来を指し示すような言葉掛けをすることは、ほとんどできませんでした。生徒だからというわけではなく、我が子たちにも、その適性を見出してアドバイスすることはできませんでした。子供の才能、適正を見出して進路や将来に導いてあげることが、教員としても、親としても、とても難しいことです。ジャニーさんのようには、なかなかできません。

それでも、もしジャニーさんを真似できることがあるとすれば、子供たちが何かをやりたい、挑戦したいと言ってきたときに、「ユー、やっちゃんなよ!」(「やってみたら」「頑張っごらん!」)という応援をしてあげることでしょうか。

ちなみに、同じクラレの調査では、保護者が子供に就かせたい職業は、男の子が公務員、会社員、研究者、エンジニア、スポーツ選手、女の子が看護師、医療機関、薬剤師、保育士、公務員の順だそうです。子供の夢と、親の期待値の差が、アドバイスを難しくしている原因の一つかもしれません。

今日で若葉台小学校2年目の1学期が終わります。市内で一番、児童・生徒数の多い中、無事に1学期を終えることができることに、校長としてホッとしております。それも、保護者、地域の皆様、学校に関わってくださっている方々の、努力と支援があつてのことです。心より感謝申し上げます。

子供たちには、学校を離れ、家庭、地域に戻る夏休みに、学校ではできないこと、学べないことをたくさん経験し、挑戦してほしいと思います。全児童が、元気に登校してくる2学期の始業式を待っています。

新校舎の建設工事が始まります

6月の市議会で、新校舎建設に向けての今年度予算と受注業者が承認され、6月29日には、若葉会館で工事説明会がありました。

また、7月16日(火)には、業者主催の起工式が、旧けやき台小の敷地で行われ、行政や地域代表の方が招かれ、式に参列しました。いよいよ7月下旬の杭打ちから、工事が始まります。

詳しくは、教育委員会のホームページをご覧ください。



日本文化 和太鼓の体験

立川市立若葉台小学校

学校だより

令和元年8月27日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目24番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

「絆」の意味

いづち みつる
校長 井土 満

この夏の東京は、梅雨寒続きの7月から一転し、梅雨明け以降は、猛暑続きの8月でした。学校閉庁日のお盆のころは、「こんな暑さの中、オリンピックが開かれたら、出るほうも見るほうも大変だなあ」と思いながら、エアコンの効いた部屋に閉じこもっていました。

東京オリンピック2020の開会式は7月24日、閉会式は8月9日です。そして、パラリンピックの開会式は1年後の8月25日です。ちょうど一年前に当たるおとこの日曜日には、パラリンピックの選手を題材にした、ドラマやドキュメンタリー、インタビューがテレビでたくさん放映されていました。

そのテレビ番組を見ていて初めて知った言葉があります。それは、陸上競技で視覚障害者と一緒に走る伴走者をつなぐ数十センチメートルのロープを「絆(きずな)」と言うことです。もちろん、そう呼んでいるのは日本だけで、一般的には「ガイドロープ」といいます。

伴走者とガイドロープの役割は、路面の状況やコースを伝えることですが、視覚障害マラソン選手の道下美里選手は、それだけでは「心の支え」とであると、話していました。また、道下選手の伴走パートナーの青山さんは、「伴走者は支えてあげているのではなく、互いに成長し、互いが支え合うもの」と話していました。もう一人の伴走者の志田さんは「伴走は、お互いがなくては、どちらが欠けてもスタートラインに立てない特殊なもの」「心のつながりみたいなものをあのロープが体現していると思う」と言っていました。目には見えない「心のつながり」を目に見える形として表しているのが「絆(ガイドロープ)」ということです。

私たちが「絆」という言葉を、よく使うようになったのは最近のことで、2011年の東日本大震災のあとからです。その年末には、1年間の世相を表す「今年の漢字」にも「絆」が選ばれています。

それは、つながりや、支援の気持ちを表すには「絆」という言葉は、最適だったからでしょう。しかし、道下選手や伴走者の話を考えると、「絆」とは、単に関係があることを表す言葉ではなく、また、一方的な支援でもないということに思い至ります。信頼関係があり、互いに互いを成長させるような関係がなければ、「絆」とは言えないということです。そう考えると「親子の絆」は、単なる「親子の関係」ではなく、また、親から子への一方通行の支援ではないはずです。互いがなければ成立せず、そして、互いの信頼と支え合いがあって初めて「親子の絆」と言えるということに気付きます。

しかし、私たち大人は、子どもたちを、絆のもう一方のパートナーだということを、つい忘れがちなのではないでしょうか。ガイドロープのように、形として見えないからかもしれません。もし、絆が形として見えれば、互いが、それをしっかり握っているかどうか、手を放しそうになっていないかどうかが見えて、すれ違いやぶつかり合いに悩まない、もっと素直な関係(親子関係に限らず)が作れるのかもしれません。

さてさて、一年後の東京の夏はどんな夏になっているのでしょうか。熱気はオリンピック、パラリンピックに対しての私たちの思いだけにして、気候は、選手の皆さんが活躍できる、普通の夏(できれば涼しい夏)であることを祈ります。道下選手だけでなく、オリンピック、パラリンピックを目指している選手の頑張りを応援し、出ることになった選手すべての活躍をみんなで期待し、楽しみにしましょう。

今日の始業式や教室で見かけた子どもたちの顔は、夏休みにいろいろな体験をして、少したくましくなったようにも見えます。今学期も、この若葉台小の子どもたちに対して、皆様方の見守りやご支援を、よろしくお願い致します。もちろん、家族の絆、地域の絆を大切にしながらです。



夏休み小中連携外国語活動の研修

立川市立若葉台小学校

学校だより

令和元年10月1日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目24番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

ラグビー ワールドカップを見ながら

いづち みつる
校長 井土 満

ラグビーのワールドカップ日本大会が9月20日から始まりました。日頃は、ラグビーにはあまり興味がないので、比較的近所の東京スタジアム(味スタ)でおこなわれる試合も、「当日券ぐらいあるだろう」と思っていたら、意外や意外(私にとっては)の大盛り上がりで、当日券どころか、何万円もするシートすら手に入らないそうです。

開会式当日のロシア戦、そして9月28日のアイルランド戦の大金星など、日本チームの活躍をテレビで見やすかり「にわかラグビーファン」になってしまいました。

この大会の報道や試合を見ながら、いくつかの学ぶこと、考えることができました。

一つは、チームの多様性です。代表チームの顔ぶれは、31人中15人が外国出身の選手です。ラグビーの代表資格は、その国・地域の代表経験がなく、①本人がその国・地域生まれ、②両親、祖父母の1人がその国・地域の生まれ、③3年連続して、その国・地域に居住、④通算10年その国・地域に居住のどれかを満たすことです。オリンピックの代表基準に比べ、とてもゆるやかというか、おおらかとも言えます。

「外国人ばかり」という批判もあるそうです。しかし、出身や国籍にとらわれず、今いるところでそこにいる人たちと協力しあう、力を尽くす、結果を残すという、その考え方の中には、ますます進んでいく国際化社会に向け、解決すべき課題や意識変革の必要性、日本の目指すべき姿が示されているのではと感じました。

もう一つは、チーム内アワード(表彰)です。その日最も活躍した選手に、ヘッドコーチなど首脳陣から赤い鞘作りの日本刀のレプリカが贈られる「ソード賞(最優秀選手賞)」、ベンチに入れなかった選手8人が最も活躍したと考える選手に贈る「メンバー・オブ・メンバーズ」賞、勝利につながる抜け目ない試合巧者なプレーをした選手に贈られる「ダーク賞」などがあります。

中でも、試合に出られなかったメンバーやベンチ外のメンバーも含め、献身的なサポート、準備をした選手に贈られる「グローバル賞」は、素晴らしい考えだと思います。試合に出て、活躍して、勝利に貢献することは、選手の全員が目指すことです。しかし、チームとは、グラウンドに立つ人の人数よりも、それを支える人のほうが多く、その人たちも含めてがチームなのです。その人たちを、認め、誉め、感謝するというのは当たり前のように、忘れてしまいがちでもあります。

今、体育の授業ではベースボール型の競技を学習している学年があります。校長室の窓から、その様子を見てみると、プレーに熱くなってつきつい言葉を使ってしまうたり、勝負にこだわりすぎて、負けると友だちに当たったり、泣いてしまったりする子どもが、ときに見られます。

でもよく見ると、投げ出された道具をそっと拾ってきて次の人に手渡す子、アウトとわかっているにもかかわらず最後まで全力で走る子、友だちに応援や励ましの言葉をかけ続ける子も見られます。スポーツですから、一生懸命取り組むことや、勝負にこだわることを教えるのは大切なことです。同時に、陰でがんばった、練習に真剣に取り組んだ、チームを盛り上げたり、そういう友だちを認め合えるチーム、学級作り、指導をしっかりとやってほしいと教員に話をしました。

世界各国から、選手や応援の人たちが集まってきて、ワイワイとお祭り騒ぎ。来年のオリンピック・パラリンピックが、ますます楽しみになってきました。ちなみに、まだ交通経路や熱中症対策の問題があるのですが、うまくいけば来年のオリンピックでは、全校児童が3日間に別れてラグビー(7人制)の観戦をする予定です。

ご家庭でも、みんなでラグビーを見て、日本チームの応援しながら、ラグビーの精神、来年のオリンピック・パラリンピックのことなど、話題にしてみてください。

それにしても、どうしてチケットの申し込みをしておかなかったのか……。今さらですが、テレビを見ながら悔やんでいます。

立川市立若葉台小学校

学校だより

令和元年11月1日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目24番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

コミュニティ・スクール元年と開校記念日

いつち みつる
校長 井土 満

この秋は、台風や豪雨による被害が、日本各地に出ています。被害に遭われた皆様には、心よりお悔やみ、お見舞い申し上げます。

ところで、秋といえば、学校の周年行事が開かれる時期に当たります。立川市でいうと、今週末の11月2日には、第二小の創立90周年、来週9日には南砂小の50周年行事があります。ちなみに来年の2月29日には、第一小が150周年を迎えます。若葉台小学校は、開校2年目なので、強いて言えば今年は2周年です。

周年記念の行事は、各校の開校記念日前後におこなわれることが多いようですが、若葉台小学校の開校記念日がいつかを知っていますか。 答えはあとで。

「開校記念日」は、誰が、どうやって決めるのかを教育委員会に問い合わせ調べてもらったところ、創立年月日については、学校設置条例の改正条例施行日の平成30年4月1日となるそうです。しかし、開校記念日の決定については、特にルールがなく、学校側で決めて良いとのことでした。

その上で、決定にあたっては、①学校運営協議会(CS)など地域の理解を得ること ②学校史等で記録に残しておくことという、二つのアドバイスをいただきました。

さて、今年から立川市内全校で、コミュニティ・スクール(CS)が始まりました。コミュニティ・スクール元年です。CSとは、「学校運営協議会」を設置している学校のことと法律で定められています。学校運営協議会は、学校運営や必要な支援に関して協議をする場で、具体的には、①校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること ②学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べること ③教職員の任用に関して、教育委員会に意見を述べることなどをします。学校ごとに違いますが、保護者代表、地域住民、地域学校協働本部推進員などがメンバーになります。

若葉台小では1町内1中学1小学校の特色を生かし、立川九中と共同の学校運営協議会を立ち上げました。

今年の委員さんは、両校の管理職の他に、次のみなさんをお願いしています。

山田拓男さん(保護司、放課後子ども教室代表)、新藤富士雄さん(若葉青少健委員長)、鈴木柳子さん(主任児童委員)、津田利夫さん(若葉町体育会会長)、小畑くるみさん(けやき台さくら保育園・さくら学童 総園長)、岸野隆さん(若葉町子ども会育成者連絡協議会(若子連)会長)、菊池克己さん(若葉町文化会会長)です。

9月に開かれた学校運営協議会で、若葉台小学校の開校記念日を議題にさせていただき、日にちを決めることにしました。考えられる候補日は、開校式をした平成30年4月6日か、校歌・校章のお披露目式典(開校式典)がおこなわれた平成31年の2月9日だろうということになりましたが、4月6日はまだ春休みなので、2月9日がよかろうということになり、ご承認いただきました。

ということで、若葉台小学校の開校記念日は2月9日です。

くるりん&ウドラ たちかわ塗り絵展

法政大学キャリアデザイン学部の学生さんと壽屋さんが、地域を盛り上げようと「くるりん&ウドラの塗り絵」展を企画しました。若葉台小も1,2年生の希望者が参加しました。その展示があります。近くに行く機会があったら、ぜひ見学してみてください。

日時:10月31日(木)~11月5日(火) 10:00~19:00

場所:立川高島屋S.C. 1階エスカレーター横



学校運営協議会の様子

立川市立若葉台小学校

学校だより

令和元年12月2日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町4丁目2番1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

『言葉のもつ不思議な力』のお話



副校長 中野 貴博

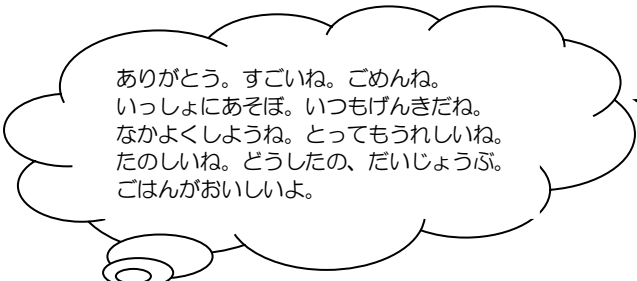


日頃より、本校の教育活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。2学期もあと1か月で終わりを迎えます。各学級で子供たちは学習等のまとめをしっかりと行っています。

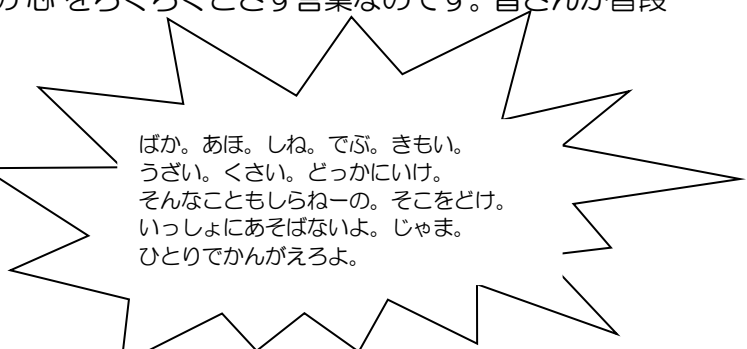
11月25日(月)の朝会で子供たちに、絵本「わたしのいもうと」(まつたに みよこ 文)の朗読をしました。絵本「わたしのいもうと」には、誰でもそれぞれのよさをもっているはず。そのよさを互いに認め合って、いじめのない楽しい学校生活を送ってほしいという願いが込められています。朝会で子供たちには、「言葉の力」の大切さについてのお話をしました。

さて、若葉台小学校の児童の皆さん。皆さんが普段つかっている言葉には「不思議な力」があることを知っていますか。

言葉には、時に人を勇気付けたり、なぐさめたり、嬉しい気持ちにする力があります。これを「ふわふわ言葉」と言います。しかし、その反対に、人を傷つけたり、悲しませたりすることもあります。それを「ちくちく言葉」と言います。言われた人の心をちくちくとさす言葉なのです。皆さんが普段つかっている言葉はどちらが多いですか。



◎「ふわふわ言葉」は、言った人の心にも優しい気持ちにしてくれます。



▲「ちくちく言葉」は、言われた人の心にも言った人の心にも、嫌な気持ちを残します。

いらいらして「ちくちく言葉」を言いそうになったら、大きく息を吸って「ちくちく言葉」を飲み込んでみてください。それでも我慢できずについ「ちくちく言葉」が出てしまったときには素直に謝ることができるといいですね。皆さんが普段何気なくつかっている言葉には、大きな力があります。す。「ふわふわ言葉」があふれ、互いに認め合えらるといじめもなくなります。

令和元年も残すところあと1か月で終わりになります。今年1年を振り返り、普段何気なく使っている言葉を見つめ直しましょう。全ては周りの人たちの助けがあって成り立っています。家族や地域の方、友達や先生など、感謝を伝えたい人に「〇〇をありがとう」「〇〇で嬉しかったよ」などの思いをこの機会に伝え、新しい年を迎えてほしいと思います。

「ふわふわ言葉」がさらに広まり、「ふわふわ言葉」に包まれ心温まる若葉台小学校にしていきましょう。

ご家庭でも「言葉の力」についてお子さんと話し合ってみてください。

立川市立若葉台小学校

学校だより

令和2年1月8日発行

校長 井土 満
 〒190-0001
 立川市若葉町4-24-1
 TEL 042-536-3971
 FAX 042-534-6943
 HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>



国際化社会に必要なコミュニケーションの力

いづち みつる

校長 井土 満

明けましておめでとうございます。令和最初のお正月を迎えました。若葉台小の児童の、そしてご家族や地域の皆様の、穏やかな一年を心より願い、新年のご挨拶を申し上げます。

さて、今年は何んと言っても東京オリンピック・パラリンピックの年です。

前回の東京オリンピックが開かれた1964年10月には、私は3歳3か月でした。その時見たオリンピックの記憶は、人生における最も幼い頃の記憶です。祖母に抱かれて見た小雨の中の聖火リレー、父と行った柔道で見た選手の鼻血の鮮やかな赤。そんな記憶は、写真でもなく、大人の話でもなく、私の中の本当の記憶です。若葉台小の児童を始めとする子供たちに、今年のオリンピック・パラリンピックはどのような思い出を残すことでしょうか。

ところで、最近では、東京や京都などの観光地に行くと、周りから聞こえてくる会話の多くが外国語であることにビックリします。日本の国際化が進んでいることは知っていましたが、それを実感させられます。この夏のオリンピック・パラリンピックには、普段の外国からの観光客に加え、より多くの国々からの人々が集い、それをきっかけにさらなる国際化が進むことでしょう。小学生の子供たちは、これからのそういう国際化社会を生きていくのです。

国際化社会に生きていくのに必要となる力の一つが、コミュニケーション力だといわれています。ここでいうコミュニケーションの力と言ったら、皆さんはいったい何を思い浮かべますか。多くの方が思い付くのが、言語の力、特に英語の力でしよう。そうした背景もあるのか、4月から全面改定される小学校学習指導要領では、5、6年生で外国語が教科化され、3、4年生でも外国語活動が始まります。

学習指導要領では、3、4年生の外国語活動のねらいは、英語がスラスラと読めたり、話したりできることを第一の目的としていません。「外国語を通して・・・、外国語による・・・、外国語で・・・」というように、外国語を手段に、何かに気付く、何かの力を付けるという表現がたくさん出てくるのがポイントです。身につける力として「コミュニケーションを図る素地となる資質・能力」「コミュニケーションを図ろうとする態度」などが考えられています。

若葉台小学校では、平成29・30・31年度 立川市教育委員会教育力向上推進モデル校として、「外国語に親しみを持ち、主体的に人と関わろうとする児童の育成」を主題に研究をしてきました。

研究を始めた頃の目標の一つは「どの担任もが英語の授業が、一人できるようになろう」でしたが、研究を進めるうちに、子供たちに付けたい力に、しっかり目がいくようになりました。そして行き着いたのが「相手意識をもった、コミュニケーションの力」です。学習指導要領の外国語活動のねらいにある「コミュニケーションを図る素地となる資質・能力」「コミュニケーションを図ろうとする態度」と通ずるものです。

私たちは普段の生活の中で、全てを言わなくても通じる場面がよくあります。それは、日本という共通の文化に暮らしているから通じあえるのです。しかし、外国という異文化から来た人には、言語を始め、身振りや表情、ジェスチャーなどの非言語も含めて、なんとか伝えようとしなければ伝わらないこと、分からないことがたくさんあります。どうにか伝えようとするところに、日本語だけで話している場面ではあまり意識しない、相手意識が生まれます。外国語を通して、相手意識を育てることが、すなわち研究主題の「主体的に人と関わろうとする」態度、児童の育成なのです。相手意識なんて、普段の生活の中で、育てるべきものだという声も、もちろんあるのですが・・・。

今月24日(金)には、今までの研究の成果としての授業公開と発表(裏面参照)をおこないます。ねらい通りの児童の育成には、まだまだ課題もありますが、本校の教職員が、みんなして一つの方向を向いて取り組んできた成果の発表です。それは同時に、二つの小学校の子供たちが、英語を始めとするいろいろな手段や学習の場面でコミュニケーションの力を育て、使い、一つにまとまろうとしてきた日々の取り組みでもあります。それらを、他校の教員を始め、保護者や地域の皆様にも、ぜひ見ていただければと思います。当日のご来校をお待ちしております。



立川市立若葉台小学校

学校だより

令和2年2月3日発行

校長 井土 満
〒190-0001
立川市若葉町4-241
TEL 042-536-3971
FAX 042-534-6943
HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>



節分で豆をまく理由を説明できますか、英語で

いづち みつる
校長 井土 満

本校が、開校時から2年間取り組んできた「外国語に親しみ、積極的に人と関わろうとする児童の育成」の研究発表会を、1月24日に実施しました。当日は、多くの保護者、地域の皆様、市内外の学校の先生方にご参観いただき、ありがとうございました。

研究の取組を支えてくれた大きな力の一つは、立川市が派遣してくれている ALT(外国語指導助手)の先生です。シャリカ先生とメグ先生の二人が交代で来て、外国語・外国語活動の授業で T2(チーム・ティーチングをするときの補助的な先生)として、T1の担任を助けてくれました。

この ALT が職員室にいて、先生たちと授業の打合せをしているとき以外は、「ぼつん」としているように見えることがあります。もっとも、他の先生たちも、職員室にいるときは、おしゃべりなどせず、一人で黙々と仕事をしているので、決して ALT だけが「ぼつん」ではないのですが、私には、なんとなくそう見えてしまいます。

なので、給食の時間などに、積極的に話しかけるようにしています。自分のもつ、あらん限りの英語力を駆使して、その日の給食のメニューや食材だったり、気候や季節の話題だったりを話します。

つい先日も、メグ先生に節分について話をしました。「ドウ ユー ノウ セツブン？」と話を始めて、「豆(soybeans)を投げ(throw)て、鬼(demon)を追い払う(go out)行事(traditional event)だ」ぐらいはなんとなく伝えることができても、その先はちょっと難しく、話がつっかえてしまいました。節分が立春の前の日で、立春とは二十四節季の一つであることなどは、私の英語力ではなかなか通じません。いつも、そのあたりになると、周りの先生たちが、クスクス笑いながらスマホや辞書を引っ張り出して助けてくれます。その日も助けを借りながら、やっと説明した気になっていたら、メグ先生は「何で豆なのか？」という、とんでもない質問をしてきました。

なぜ節分に豆をまくのかなど、小さい頃から当たり前のことなので、考えたこともありません。「豆はパワー・アイテムだからさ」と、分かったような分からないような説明をしたら、メグ先生も、分かったような分からないような、困った顔をしていました。

ネットで調べたら、例えば、民俗学の新谷尚紀さんの説として、日本人独特の「穀霊信仰」の表れで、農耕民族として長い歴史をもつ日本人は、米や麦、豆などの「五穀」に災いを払う霊力があると信じてきたから、と出ていました。他にもたくさん説が出ていましたが、どの説が正しいのかはよく分からなかったし、どの説も私の英語力では、メグ先生に説明することはできませんでした。もやもやしているうちに、この話は終わりにになりました。

そのとき、ふと思ったことは、私がもやもやして苦しんでいるのは、いろいろな力が不足しているからで、その足りない力こそ、これからの時代を生きる子供たちに求められている力、付けなければならない学力なのではないかということです。ネットを通じて必要な情報を得る力、その情報が正しいかどうかを判断・選択し、応用し役立てる力、外国の人を含めたいろいろな人に伝える力などです。そういう情報スキルや英語力、言語力の育成は、これからの新しい教育の大切な柱となっていきます。

しかし、どんなに素晴らしい情報スキルや言語力が身に付いたとしても、それを生かさなければ何にもなりません。それを生かす場面こそが、いろいろな人たちと関わり、社会生活の中にあるのです。だからこそ、研究テーマにある「積極的に人と関わろうとする」意欲や態度が大切になります。総合的なコミュニケーションの力とも言えます。

研究発表当日、6年生が外国からの留学生に、つたない英語ながら、ひるむことなく、立川市のすばらしい所を一生懸命に伝えようとしている様子に、研究の成果と、これからの社会に生きる子供たちの「未来の姿」が見られたような気がしました。



英語で立川市のPRをしました。

立川市立若葉台小学校

学校だより

令和2年3月2日発行

校長 井土 満

〒190-0001

立川市若葉町 4-24-1

TEL 042-536-3971

FAX 042-534-6943

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>



「また明日」と言える未来

いづち みつる
校長 井土 満

6年前の3月2日の夜に、中学校で最初に受けもった教え子から、メールが届きました。何か？と開いてみると、それは教え子からではなく、その兄からのメールで、教え子本人の心筋梗塞による急逝を知らせる内容でした。40歳だったので「若すぎる」と言ってもいい死でした。お葬式では、受けもった当時の、つらかったことや楽しかったことの、たくさんの思い出が、涙とともに後から後から湧き出てきて止まりませんでした。

最後に会ったのがいつだったかと思えば、数ヶ月前の同級生同士の結婚を祝うパーティーが最後でした。帰り道、国立駅まで教え子たちとみんなで歩いてきて、「また、そのうちね。」と言って別れましたが、その教え子との「また」はありませんでした。

私たちは、「また」「そのうち」をいつでも期待しながら暮らしているように思います。今日が終われば、「また明日。See you again!」です。いつまでも、明日の再会やいつもの暮らしが繰り返されると、ある意味信じて生きているのです。

でも、そうではないことも分かっています。

9年前の3月11日の東日本大震災のときにも、昨日まであった命や人々の暮らしが、突然断ち切られてしまう現実に、悲しみ、おののき、今日の日が明日に続かないことを体験しました。今日までの日々が明日にはないかもしれないという気付きは、大きな不安でもありました。

今回の新型コロナウイルスによる突然の臨時休業も、それを知った子供たちにとっては、長い春休みが来たというような喜びは、誰にもありませんでした。これからどうなるのだろうかという、不安げな表情ばかりです。

政府の打ち出した全国の小・中・高校の臨時休業は、賛否両論です。科学の進んだ現代において、伝染病拡大防止の方法が「家から出ない」というのは、なんとも原始的なものです。それでも、エビデンス(根拠)がどうの、有効性がどうのなどの論議は、テレビの評論家に任せて、それが、今私たちにできる最大限の努力だと思いたいと思います。

不安なのは、私たち大人にとっても同じことです。人の多い都会に出かけたり、医療や福祉を始め人と接したりする職場で働く方も、きっと多いと思います。しかし、大人の不安を、子供たちはしっかりと見ています。大人が動揺することなく、学校・家庭・地域が一致団結して、「やれることをしっかりとやる」ということを子供たちに態度で示し、教え、この危機を乗り越えていきましょう。

卒業、進学、進級と学年末のとても大切な時期ではありますが、一番大事なことは子供たちを含め、私たちの「健康・命」です。ご家庭の様々な事情もあることと思いますが、「健康や命の大切さ」「平和に暮らせ、当たり前のように学校に行き、友達と学び、遊ぶことへの感謝」「毎日をしっかり暮らすことの意味」、そういうことを考える良い機会ととらえ、子供たちの不安を支えましょう。

6年前に結婚した二人は、その後、子供を授かり、今年で3歳になりました。着実に成長していく、子供の姿を見るにつけ、子供たちとは、私たち大人にとっては、明日の未来であり、希望なのだと感じます。また、東日本大震災の被害を乗り越え、復興に取り組んできた、多くの人々の姿からも、乗り越えられない困難はないということも確信しています。

だから、人生には「また」がないこともあるけれど、子供たちには「また明日」と元気に言える未来が確かにあることを、しっかりと伝えたいと思います。



6年生合唱練習 小学校での最後の授業

立川市立若葉台小学校

学校だより

令和2年3月24日発行

校長 井土 満
〒190-0001
立川市若葉町4-24-1
TEL 042-536-3971
FAX 042-534-6943
HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>



見えないけれど確かにある大切なこと

いづち みつる
校長 井土 満

新型コロナウイルス感染症の国内での拡大により、2月28日に突然、安倍総理大臣から、全国の小中学校、高等学校の臨時休業の要請が発表されました。それを受けて、立川市でも3月2日の午後から、市立小中学校の臨時休業が始まり、今日で3週間が過ぎます。

この間、子供たちが、どのように過ごしていたかは、先日ホームページ上で実施した調査で、少し様子が分かりました。

子供たちの主な居場所は、保護者、祖父母と一緒に自宅59%、兄弟姉妹と自宅23%、主に学童9%、その他(複合・一人で自宅・祖父母の家など)9%でした。また、コメント欄からは、子供たちの生活の様子も伝わってきて、子供たちは、思った以上に元気に過ごしていることがわかりました。しかし、それは当たり前のもので、新型コロナウイルスに感染している児童はだれもいませんし、ご家族の皆さんでいつも以上に健康に気を付けていて、インフルエンザどころか、風邪すらひいていない元気な子供ばかりです。そんな子供たちにとって、外に出る時間が少ないのは、本当に苦痛なことでしょう。文科省のHPでは、「外遊びは子供たちの運動不足やストレスを解消するために運動の機会を確保することも大切であると考えており、日常的な運動や遊び(ジョギング、散歩、縄跳びやブランコ、滑り台など)を安全な環境の下で行っていただきたいと考えます。」と、感染防止のため家庭で過ごすことを基本としながらも、臨時休業が始まったときの何が何でも外に出たいという感じではなくなっています。運動不足、体力低下を心配されている保護者の方も多くいます。春休み中も、家庭学習と感染防止と、バランスを取りながら健康維持に努めてほしいと思います。

同時に、学習面の遅れを心配している児童、保護者も多くいました。ほぼ全国の学校が休業していたので、遅れというよりは、やり残しと言ったほうがいいかもしれません。若葉台小学校でも、全クラスでどこまで授業が進んでいたかを調査してあります。算数は、どの学年もほぼ範囲を終わらせていました。国語は、どの学年もいくつかの単元が残っています。(ということは、習っていない漢字があるということです。)一番心配なのは、中学年以上の社会と理科です。社会は教科書をじっくり読めば、自学でもある程度理解できますが、理科はそうはいきません。実験や観察を元に考察をすすめることが重要な教科です。このやり残しは若葉台小学校だけでなく、全国の小学校の大きな課題です。

他にも、生活の乱れ、テレビの見過ぎ、ゲームのやり過ぎ、スマホの使い過ぎ、精神的なストレスなど、たくさんの心配事がメッセージ中には、込められていました。

そして誰もが、何よりも一番の心配なのは、学校がいつ再開されるかと言うことです。政府は20日の新型コロナウイルス感染症対策本部で、小中高校などでの全国一斉の臨時休校の要請を延長しない方針を確認しました。このまま、新型コロナウイルスの感染が広がらず、収束に向かえば、4月の新学期からは、学校は再開されるでしょう。しかし、ヨーロッパのいくつかの国のように、オーバーシュート(爆発的な感染拡大)が東京で起きれば、大人も含め、今よりもっと厳しい外出禁止策がとられるかもしれません。こうした、不安な日々がいつ終わるのかは、現時点では全く見えていません。先の見えないということこそが「不安」の原因だとは分かっていますが、すこしも不安の解消にはなりません。そして、不安がデマを生み、そのデマを信じ、買い占めなどの行動につながっています。大人の私たちがさえそうなのだから、子供たちにとっては、大きな不安に押しつぶされそうな日々のはずです。

でも、こういうときだからこそ、普段は見えていないこと、見えにくいことが、「確かにある」のだと気付けるのではないのでしょうか。例えば、絆、愛情、信頼、協力、忍耐、努力、夢、希望……。いつもよりもゆっくりとある家族の時間を使い、思いや夢を語ったり、目標を定めて行動したりすることで、それらが、見えないけれど家族や地域の中に、確かにあるんだということ確かめられる、貴重な機会とだと、前向きにとらえてみてはどうですか。

最後に、メッセージから一つ。「『学校に行ってみんなとお勉強がしたい』と言っています。これが切実な願いなのだろうと感じます。子供の『至って普通の毎日』が一刻も早く戻ってきてくれることを親子共々切望しております。」

だれもが、みんな同じ思いです。